

■令和4年2月定例記者会見

日時：令和4年2月14日(月)午後1時～2時

場所：吹田市役所高層棟4階特別会議室

市からの発表案件に対する質疑応答要旨

吹田市広報課

記者の皆様から、ご質問をお受けしたいと存じます。ご発言のある方は挙手をいただきまして、社名をお願いいたします。

記者

市税収入が伸びているのは人口増が要因とのことですが、一番分かりやすい数字で令和3年度から4年度にかけて、最も人口増が大きいということによろしいでしょうか。

吹田市担当者

令和3年度から4年度の伸びについて、令和3年度がまだ見込みの数字でございまして、ここから少し上積みされる可能性が十分にございますので、この1年間だけで比べるというよりは、数年前からの推移で申し上げた方がいいかと思えます。国勢調査によると平成27年が37万4468人、令和2年が38万5567人という数字になっております。

記者

何月何日時点ですか。

吹田市担当者

10月1日現在です。

記者

スモークフリーシティの推進に係る卒煙支援ブースの設置について、閉所型・密閉型というのは外に煙が出ないということによろしいですか。

後藤市長

出ません。

記者

ほとんど密閉ですか。中に煙が充満してしまうのでしょうか。

後藤市長

いえ、脱臭機により浄化処理して、きれいな空気として屋外に排出します。

記者

前向きの予算編成ということの中の一つが、危機管理センターの設置であると理解したのですが、何か新しい設備を建てるということではなく、今ある高層階 3 階に危機管理室を移転するということなのですが、これに 2 億円かかるのはどういう支出項目で 2 億円かかるのかと、また、何か法的な国の要請に基づいて設置するものなのか、それとも市長の個人的な問題意識として設置するのかというこの 2 点を伺えますか。

吹田市担当者

まず 1 億 9500 万円の内訳について、危機管理センターの整備業務としまして 1 億 6500 万円ほどを見込んでおります。この中には、災害対応オペレーションシステムの機器関係で約 8000 万円。そのほかに、システム関連費用などに約 2000 万円。それ以外にはパーティションを設置するなどの工事費用に約 5000 万円です。それから二つ目は、現在、危機管理室が高層棟の 8 階にあるのですけれども、そこに設置しております行政無線。これが府と市で二つあります。それを移設する費用がそれぞれかかります。市の行政無線を移設するもので約 1500 万円。府のほうで約 300 万円かかります。そして今回、なぜ危機管理センターを設置するのかについて、本市では災害対応オペレーションルームや災害対策本部会議室が常設されていないことで、発災後、設営完了まで 3 時間程度時間がかかることでどうしても初動に時間がかかってしまいます。それまでの災害対応の経験から、やはり初動のところが全て後々に響いてくるというところがあります。これを何としても、迅速に立ち上げたいという想いが以前からありました。また、ここにきて自然災害が多発化・激甚化しているということと、震度 4 以上を計測する地震が連続的に発生している中で危機感が高まっているというのがあります。加えて、緊急防災減災事業債という地方債がございまして。昨年の 8 月に国の地方債同意等基準運用要綱が一部改正されて、今回の事業に緊急防災減災事業債という地方債が活用できることとなりました。これにより 7 割が国負担で 3 割が市負担でこの事業を実施できるということになりまして、こういったこともあいまって今回の提案にさせていただくというところでございます。

記者

2 億円というのは、7 割は国が出すということでしょうか。

吹田市担当者

まず対象経費の全額が当該地方債で賄われます。その後、地方債の償還の際、償還額の 7 割相当額が地方交付税で手当てされることとなりますので、残りの 3 割が実質的な市負担となります。

記者

卒煙支援ブースについて、JR 吹田駅と岸辺駅で密閉型の喫煙所と書かれているのですけれども、駅の構内に設置するのか構外に設置する予定なのか教えて欲しいです。

吹田市担当者  
駅の構外です。

記者  
新たに建てるイメージでよろしいですか。

吹田市担当者  
コンテナのようなブースを置くイメージです。

辰谷副市長  
JR 吹田駅北口にある今のものを撤去して、同じ場所に設置したいと思っています。現在のブースは JT さんに設置していただいています。JR 岸辺駅北口には現在設置していませんので、これから設置します。

記者  
阪急の千里線沿いにも確かいくつか喫煙所が置いているところがあったかと思うのですが、そちらへの設置はされますか。

後藤市長  
まずは実験をして、本取組での効果を測りたいと思います。

記者  
非常に印象が強かった前向きな内容の予算編成ということなのですが、前向きなというのは例えば、何か特定の予算のこういう部分が前向きだと言えますでしょうか。

後藤市長  
まず一つは、とにかくどこを削るかというのが、多くの自治体の予算編成です。先送り、削る、統合する。それがない時点で前向きです。先ほど言いました北千里駅前、南千里駅前、この辺りに新たな公共施設を作るというのも、人口が大きく減少傾向にある自治体でこれをやるのかどうかというのはあります。危機管理センターの整備というのも、現在の常設でない災害本部でも良いではないかという考え方もあるかもしれません。

記者  
そういうふうに人口とか予算規模が増えていっている自治体ならではの予算編成とっていいのですか。

後藤市長  
ならではだと思います。もちろん福祉をしっかりとベースとして基盤として持っています。納税

者で高額納税者もたくさんいらっしゃるし、納税者のニーズに対しても応えないといけない。それは快適性であり、利便性であり、そちらのほうにしっかり目を向けなければならないと思っています。

記者

一方で、コロナ禍で財政調整基金を切り崩してもうなくなってしまった自治体が結構あるとニュースになっていたと思うのですが、資料を見ると吹田市さんも税収が減ってしまった時に、結構切り崩された印象があります。今年もまだコロナ禍であるという面で、これからの当初予算で、財政調整基金を貯金するのではなく繰入れ続けるというのはコロナであるというところを意識して積極財政を、というようなベクトルが続いているのでしょうか。

吹田市担当者

資料7ページの下の表の上から2行目が財調基金の残高です。コロナで貯金を貯められずに繰り入れたということと言いますと、元年度の残高から2年度の残高にかけて減っております。その次、隣の3年度と4年度の95億円ほどとなっておりますが、3年度がまだ計算見込みの段階ですので、数字を暫定で出しておまして、これだけまだ3年度の予算上、使う額が残っているために、残高が減るような見立てになっております。この後、決算収支の状況の中では、繰入れを行わずにいたらというようなところを考えております。まだはっきりと確定的には申し上げられないのですが、最終的に繰入れを行わないという見込みは持っております。

春藤副市長

決算を迎える段階では残高は100億円を超えるものと考えております。今まだ決算調整が終わっていません。出納整理期間が令和4年5月までありますから、それが終わるまで、決算は確定しません。市長が申し上げているのは、必要な投資をするからこそ歳入が上がる。吹田に転入される方は何を思っているか、それに応えていかないと良い循環が生まれまいだろうと思っているのです。また、さらに人口が徐々に増えていくと私は思っています。その人たちが何を吹田市に求めて来られるか、それを満たしていかなければ良い循環が途切れてしまう。だからこそ、公共施設の最適化計画の中で、更新の計画をきちっと立てていますし、インフラについても、まちの固定費ということで、吹田市の魅力の1つである公園の整備などを進めていく。おそらくそういうのがあって、来ていただけると思っています。まちの中にこれだけ大きな公園があるのが珍しいとよく関東からお越しになる方に言っていただけます。関東から来ててもすごく住みやすい良いまちだと。そういう印象をおっしゃっていただくことが多いのです。身近に大きな公園があって、緑が豊かで、公共施設が充実している。そういうところも、大きな魅力だと感じておられるので、そういうことに応えていきたいというのが我々の認識としてあります。

後藤市長

好循環にブレーキをかけないことです。

記者

今回、財調の繰入れがありますけれど、これは誤差を合わせるぐらいの意味合いであって、今、根本的に足りなくて繰り入れているわけじゃないというイメージでいいですか。

春藤副市長

おっしゃる通りです。我々、危機管理センターの話もしましたけれど、この間、関東や九州などでも、地震が起きております。いつ大きな災害が来るかもしれないという認識を持って、備えていかないといけないと思います。コロナ禍でまだ大変ご苦労されていますので一部給食費の無償化などの支援を続けていく一方、災害に備えた準備はできていると考えております。

記者

それと積極財政を今年もされているという意味では、何か例えば投資的経費が、伸びたりしているのだとか、コロナ前を維持しているのだとか。

春藤副市長

建設事業費が、12.9 億円ほど前年より伸びているところですが、この時期にそれを増やせるというのは恵まれているなど我々は感じております。

辰谷副市長

具体的には、10 ページ、11 ページをご覧ください。ずっと継続して進めていますので、今回目立ちはしていませんけれど、かなり大きな投資ですね、佐井寺西地区の区画整理だとか、千里丘朝日が丘線、また、上の川周辺整備など。今回コロナの関係で、例えば、少しブレーキを踏んでゆっくりということではなく当初考えていた通りの動きで今、進めることができている。そういう意味では積極的に進めております。これらがもちろんまちづくりに大きなインパクトを与えて暮らしやすいまちづくり、魅力あるまちづくりにつながるのかなと。

記者

ちょっと確認なのですが、今回この予算規模のところ、一般会計で 1500 億円を超えているというのは、昨年よりもかなり増えているということなのですか、1500 億円を超えるというのは珍しいことなのか教えてほしいです。

吹田市担当者

初めてです。

記者

今まで一番多いのですね。初めて 1500 億円を一般会計で超えたという、そういう見立てです。よろしいですか。

後藤市長

市税収入に合わせてということです。収入が変わらないのに支出が増えたわけではない。そこを注意してほしいです。

春藤副市長

吹田市の税収構造というのは、半分が固定資産税で占めています。それと後は住民税です。固定資産税、都市計画税というのは、あまり経済動向に左右されないような課税になっています。一定以上の固定資産税を納めていただけていますので、その人達を満足させていかないといけないと私は思っています。だから、良い循環になっているのだと思います。いわゆるセーフティネットだけではなくて、プラスアルファ付加価値を求めておられる住民の方がたくさんおられると思います。それに対して、先ほど申し上げたハードに対する投資等を通じて、住民サービスを充実させていくということが必要な状況です。最低限のセーフティネットだけで留まることなく、どうしたらプラスアルファの部分为满足させていけるかということが難しいところだと思っています。

吹田市広報課

ご質問のほうはよろしいでしょうか。お時間がきましたので、本日の定例会見を終了致します。本日はありがとうございました。